

カストアとポルックスの双子青年は2人の神話上の騎士で、傳説が澤山残つて居る。ローマの兵隊は戦争になると此の双子青年が味方をして呉れるものと思つて居た。此の双子は又黄金羊毛探險遠征隊にジャソンと共に航海した冒險的なアルゴ船物語とも関係がある。

#### “蟹”

双子の東にある次の黄道帯の星座は蟹である。4等星以下の微光星より成り、蟹の背部の真中に $\alpha$ の逆型をした美しい散開星圖があつて、プレセペ又は「蜜蜂の巣」として知られて居る。此の星圖は肉眼には茫然として居るが、双眼鏡では個々の星が精微を凝らした美觀を呈す。

ギリシヤ物語に依れば、ヘルクレスがレルナイヤの沼澤に棲む九岐の海蛇と必死の闘ひをして居る時、巨大な蟹が此の怪物の味方に入つたが、ヘルクレスは此の蟹を殺して終つた。其の後此の蟹は星の仲間に入れられた。

#### “獅子”

蟹の東にある次の黄道帯の星座は獅子で、蹲まる獅子に似た目につく星座である。獅子の頭、頸、胸は古式の鎌に似た一團の星を描いて居る。鎌の柄には2つの星があつて、一つは刀身とはずつと離れて居る。名はコペルニクスの命名に依つたレグルス（小さい王様）で、偶然乍ら20箇の一等星の内、最下位にある。鎌の柄は獅子の胸にあり、曲つた刀身は頭にある。獅子の腰は直角三角形を描き、三角形の東の頂點にある星はデネボラの名がある。レグルスとデネボラとの距離は大匙の長さと同様である。

レグルス星の経度の變化を知つて、ヒパルコスは2,000年以前に歳差現象を發見した。レグルスとデネボラは二重星で、共に強力な双眼鏡で見える8等級の伴星を連れてゐる。

獅子座流星群は獅子の鎌から輻射する様に見える。1931年に特に多數見えたが、1799年、1833年、1866年の十一月にも澤山見えた。

獅子は黄道帯の凡ての最も古い星圖の中でも發見し得る。ギリシヤ初期の人々は往昔太陽が此の獅子座に入つた時に、ナイル河の洪水が起つたので、獅子を禮拜したと謂はれて居る。

神話に據れば、此の巨大な獅子はネメア谿谷を荒し廻つた。ヘルクレスは劍と弓で獅子を殺さうとしたが失敗に終つてから、遂に双手で絞め殺して了つたのである。（“Exploring the Heavens”より、佐登兒譯）

#### 天界を製本するには

「天界」の保存の爲、本の止め金を利用して合本する工夫をしました。先づ適當な薄いブリキ板を用意し（二枚）、天界の背の所の二ヶ所の止め金に、ブリキ板を順に通し、兩端を曲げて止めます。こうすると簡単に合本出來て便利で、尙、その後で背面に紙をはつて名前等を書いたりし、表紙裏表紙等をつけます。（會員 石橋正）